

DEBUT 首長

岐阜県中津川市長 青山 節児氏



あおやま・せつじ 1951年岐阜県中津川市生まれ。76年高千穂商科大学（現高千穂大学）卒。東美濃農業協同組合の常務理事、代表理事専務を歴任。解職請求（リコール）投票直前に辞職した前市長らと1月の市長選を闘い当選。趣味は神社・仏閣めぐりや読書。61歳。

市街地・郊外の一体化推進 リニア駅核に企業誘致に力

岐阜県中津川市 県東部では多治見市と並ぶ中心都市。農林業が盛んなほか、中央高速道が通り大手製造業の生産拠点が集積。2005年に近隣7町村と合併。人口8万人。

——前市長が進めていた新図書館建設計画の白紙撤回などを公約に掲げて当選した。

選挙公約なので建設中止の方針を変えることはない。ただ、図書館施設については必ずしも否定論者ではないし、文化面では反対ではないが、財政に関わることなので市民との対話を大事にしたい。市議会が割れてしまったことは市にとってよくないので、議会とのねじれ解消には引き続き努力したい。

——地域の活性化にはどう取り組む。

市民には中津川市は一本だという意識を持ってもらいたい。南部の市街地は工業・商業を中心に経済で中津川市を引っ張ってきた。一方、北部は国や県を頼りにしてきたが、一人ひとりの顔がよく見えていた。合併で行政形態が変わったため北と南

という言葉が色濃く出てきた。市長としてそれぞれの地域の特性を生かしつつ、南北の一体感を出して発展につなげていきたい。

——リニア中央新幹線計画が動き出した。2014年度に東京一名古屋間で着工、27年に同区間開業を目指し、中津川市内には途中駅が計画されている。

市内には駅のほか、リニアの車両基地や整備工場も計画されている。駅は岐阜県内の自治体を挙げて長い時間をかけて誘致を進めてきたものなので、（多治見や恵那などを含む）沿線の東濃5市にとって魅力ある地域づくりに取り組みたい。例えば、リニアの車両基地の見学ができるといい。リニア開業に向け3年ぐらいのスパンで5つの工程に分けて進めていく。観光面ではターミナル的な使われ方をすると地元への恩恵は少なくなる。行政だけではなく民間力も大いに利用したい。

——リニア開業は企業誘致にも追い風になりそうだ。

リニア駅は県の顔になり、有

望な企業が来てもらえることを期待しており、企業回りを始めたところだ。国内すなわち中津川に根付いてもらえそうな業種を見極めなければならない。東京で事業をしている人や専門家のアドバイスを参考にする。人が動く企業だとリニアを使ってもらえるので一番いい。人が来れば会議施設やホテルができるなど良い連動も期待できる。

製造業が来れば地元の雇用が望め、財政対策や少子化対策にもなる。市内の工業団地には現在16の企業が入居し、増築している会社もあるが、今の工業団地を広げることは難しい。例えば、研究所なら工場とは誘致の仕方が違ってくるので、山を削って整備するのではなく、中津川市の地形そのままに、山があり木があり水がある特性を活かす企業誘致もする。そこで働く人が中津川市に住んでもらえるようにもしたい。

（聞き手は岐阜支局長

石井 良一）